

5 情報を交換し合う。	○ 調べた内容や活動の様子を発表し合う。	○ お互いの考えから学び合うことの大切さを理解させる。個々の考えや感想を大事にしたい。
6 本時のまとめをする。	○ 発表を聞いて、また活動を通して感じたことを各自まとめる。	○ 活動を通して得たものを今後の進路学習に生かそうとする気持ちを大切にしたい。

(3) 事後指導

○ 活動を通して学んだことを生かし、日常生活において身近な人たちの職業に対する取り組みの姿勢や考えを積極的に取り入れ、進路希望の実現に前向きに努力しようとする態度を育てる。

○ 職業インタビュー等の自主的な活動計画を立て、実行できるように指導する。

(4) 評価

○ 職業や働くことに対する関心や理解が深まったか。(活動の様子・発表・記録)

○ 職業インタビュー等の大切さに気付き、活動への意欲が高まったか。(発表・記録)

イ 授業の様子



・ コンピュータを使って、様々な職業を意欲的に調べようとする学習が展開された。

・ 生徒は班内で順番を決め、それぞれ興味や関心を持っている職業について調べ、要点をワークシ

ートにまとめていた。

・ 班活動の中にコンピュータを位置づけたことで、生徒は互いに調べた内容を積極的に交換し合うとする姿勢が見られた。

・ 職業に対する視野を広げさせる意味からもコンピュータが生徒同士のコミュニケーションを深める媒体として有効に活用されていた。

ウ 授業後の生徒の声

・ いろいろな職業について調べることができて良かった。また時間があったら詳しく調べたい。

・ 自分が知らなかった職業がたくさんあり、ふだん聞けないことが多く聞けて、とても勉強になった。

・ 職業と一口でいってもいろいろあるということが分かった。また、職業の中には様々な資格や免許、知識が必要なのだと感じた。

・ 自分が就きたいと思っていた職業は楽しいことばかりではなく、苦勞も多いんだなと思った。

・ どの職業もそれなりに必要な技術がある。これをクリアしてはじめて一人前になれるのだと感じた。

・ この職業に就こうと簡単に考えていたが、自分が就きたいと思っていた職業がこんなに難しいとは思わなかった。

・ 将来の職業についてあまり深く考えたことがなかったけど、今日は将来について考えるよい機会になった。

エ 授業者の声

・ 生徒が実際に聞き取り調査を行うことは、体験学習を重視する上で重要であるが、現実的には無理な面がある。今回のようなソフトウェアを活用することは、疑似体験ではあるがより現実的で効果があった。